



麻里布小だより



<http://www.edu.city.iwakuni.yamaguchi.jp/site/marifu-e/>

令和7年11月号 大野元良

～「やまぐちPRIDE」の醸成～

2学期の折り返しを迎えようとしています。10月に入っても酷暑が続いていましたが、ようやく過ごしやすい季節を迎えました。日々の学習や諸行事の中で、子どもたちの生き生きとした表情に接することができ、うれしく感じているところです。

さて、標題の「やまぐちPRIDE」の醸成という言葉は、本年度、山口県教育委員会から発信されたもので、初めて耳にされた方も多いのではないのでしょうか。

山口県においては、人口減少や人口流出が大きな課題となっています。そこで、「ふるさと山口」の未来を創る心意気を子どもたちに育み、明るい地域づくりにつないでいくことを目標として示された言葉が、「やまぐちPRIDE」の醸成だと捉えています。具体的には、「ふるさとを思う心を育む教育」の実践が重要となります。

麻里布小学校においては、コミスクとしてこれまでも幅広い地域連携教育に取り組んできました。3年生以上の総合的な学習の時間には、学年ごとにテーマを設定して、地域の皆様等からお話を聞かせていただく場面や、地域に貢献できることはないだろうかと考え活動する場面を設定してきました。算数科の「九九ボランティア」や、家庭科の「ミシンボランティア」等へのお力添えで、子どもたちは、地域の皆様の温かさを感じてくれていることだと思います。また、中学生との交流等の「縦のつながり」を創出することにより、あこがれの気持ちを抱く場面も設定しています。

これらの地域と連携した教育活動においては、子どもたちの「地域への所属感」が高まることをねらいの中心に据えています。こうした取組を検証・改善しながら、「ふるさと麻里布を思う心」「まりふPRIDE」の醸成につないでいきたいと考えています。

～「特別活動」で育つ力～

学校では、教科の学習以外に、「特別活動」という領域の教育活動に取り組んでいます。

「特別活動」とは、様々な構成の集団から学校生活を捉え、学校や学級の課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活をめざして行われる活動だと定義されています。その活動の範囲は学年が上がるにつれて広がりを持ち、そこで育まれた資質・能力は、社会に出た後の様々な集団や人間関係の中で生かされていきます。

「特別活動」の内容としては、委員会活動や集会活動を中心とした「児童会活動」、共通の興味・関心を追求する自治的な活動としての「クラブ活動」、様々な「学校行事」に大別することができます。取組の中で、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」など、まさに「生きる力」として重要な資質・能力を育むための活動と言えるでしょう。

本校の「児童会活動」では、縦割り活動を取り入れ、異学年交流に力を入れているのが特色です。上級生の姿を見て学び、下級生の手本になるという営みの中で、交流する楽しさ（わくわく）や達成感を感じさせ、目に見えない力の涵養を期待しています。小学生だけで場面設定できる「縦のつながり」も、「まりふPRIDE」の醸成につながっています。

～金管バンド@岩国祭 10/19～

天候が心配されましたが、岩国祭では吹奏楽の祭典が開催されました。金管バンドのメンバーは、練習の成果を発揮して、堂々とパレード・ステージ演奏を行いました。力強い演奏と、真剣な表情で取り組む子どもたちの姿に、盛大な拍手をいただきました。

11月3日には、麻里布中学校吹奏楽部との合同コンサートに出演する予定です。



2学期は、外部講師を招いた学習や体験的な学習等を、各学年で積極的に取り入れています。ホームページで紹介していますので、ぜひご覧ください。

～「安心・安全(にこにこ)」「交流(わくわく)」「探求(どんどん)」～